

「MMT の書籍が沢山出回っているのに理解しない国会議員が多いのは、何故だと思いますか？」

令和元年 10 月 2 日

●ハジメシヤさんからの質問

MMT の書籍が沢山出回っているのに、それを理解しない国会議員が多いのは、何故だと思いますか？本を読めば、経済学者でなくても、理解はできると私は思います。

●西田昌司の答え

私は自著『財務省からアベノミクスを救う』において、MMT の肝である「信用貨幣論」等についてわかりやすく説明していますし、この本を自公の衆参の国会議員全員に差し上げました。何人かの方から「西田さんの言いたいことがよくわかったよ」と声をかけていただきましたが、何百人もの国会議員のうちで読んだ方はほとんどいなかったように思います。中野剛志さんも『奇跡の経済教室』という本で MMT を非常にわかりやすく解説していますし、これを全国国会議員が読めば誤った経済政策が正されてデフレ脱却など簡単に叶うでしょうが、読めばわかるものを、困ったことにこれが読まないのです。

国会議員は朝から晩まで会議がびっしり詰まっていますし、非常に忙しい仕事です。省庁からの報告を聞いたり、他の議員の話の聞いたり、自分の意見を述べたりして様々なことを勉強する機会に恵まれているとはいっても、自分から進んでいろいろな本を読んで勉強をしなければ目まぐるしく変わる世の中に付いては行けないでしょう。

MMT のような新しい経済学が登場したのであれば本を読んで勉強するく

らいのことはしてもらいたいですが、忙しいものですから自分では読まずに他の人に聞くわけです。そこで「自国通貨建ての国債は絶対に破綻しないからどんどんと国債を発行して財政出動すべき、という話のようですよ」といった答えが返ってきようものなら、「だったら税金をとる必要もないじゃないか。そんなのとんでもない」と早合点して反 MMT 論者になってしまうのです。しかし、MMT は税金が不要などとはひとことも言っていません。

MMT は「自国通貨建ての国債をいくら発行しても財政破綻の心配がないのでどんどんと財政出動すべき」とは言っていますが、と同時に「貨幣は納税義務を解消する手段としてその価値が担保される」とも言っています。すなわち、税金がなければ貨幣の価値も生まれないのです。

「日本の政府債務が対 GDP で 200 % を超えていて主要先進国中で最悪だ。今にも日本はハイパーインフレになって財政破綻する」といったことが叫ばれて、安倍政権はプライマリー・バランスの黒字化路線を着実に歩んでいますが、財政赤字の額や政府債務の対 GDP 比率は財政破綻とは関係がありません。確かに、政府債務の対 GDP 比率が無限に膨らむのは大きな問題ですが、政府が支払う金利を経済成長率よりも低くすればそのような事態にならないことは数学的に証明されています (L・ランダル・レイ著『MMT 現代貨幣理論入門』の 153~159 ページ)。

「MMT は財政赤字を無限に拡大して良いと主張している」との誤解もありますが、「インフレになり過ぎない範囲内に財政赤字を抑えるべきである」と財政赤字の制約についてきちんと語っています。インフレ率の上限を (例えば 5% と) 決めておいて、もしもその上限を超えてしまいそうな状況になったら、税率を引き上げたり、公共事業の完成年度を先延ばしにして政府支出を減らせば良いのです。そうやって市中に出回っているおカネを政府が減らすことでインフレの抑制は十分に可能です。

MMT の内容を知りもしないくせに曲学阿世と決め込んで MMT を批判している国会議員は困ったものですが、不勉強なのは国会議員に限りませ

ん。主流派経済学者やマスコミに登場するいわゆる経済評論家の方々の多くが似たようなものなのです。

五・一五事件の時、問答無用を決め込む相手に対して犬養毅が「話せば分かる」との言葉を発しましたが、不勉強な MMT 批判論者の頭脳が目覚めることを願って、彼らには「読めばわかる」「自分の頭で考えればわかる」との言葉を贈りたく思います。

反訳：ウッキーさん

Copyright：週刊西田 <http://www.shukannishida.jp>